



プレスリリース

平成24年7月17日
内閣府
原子力政策担当室

アジア原子力協力フォーラム(FNCA) 「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」 第4回会合開催について

平成24年7月26日(木)～27日(金)、タイ・バンコクにて、FNCA「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」第4回会合を開催致します。

1. 主催 内閣府、原子力委員会、
タイエネルギー省(MOE)、タイエネルギー省エネルギー政策計画局(EPPO)、
タイ科学技術省(MOST)、タイ原子力技術研究所(TINT)
2. 開催日時 平成24年7月26日(木)～27日(金)
3. 開催場所 タイ・バンコク(サイアムシティホテル)
4. 参加予定国
バングラデシュ、中国、インドネシア、日本、カザフスタン、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナムの11か国

※我が国からは尾本彰原子力委員会委員(本パネル会合の会合議長)、町末男FNCA日本コーディネーター等が出席する予定。

5. 会合の開催経緯と概要

○アジア原子力協力フォーラム(FNCA)は、我が国が主導するアジア地域の原子力技術の平和的で安全な利用を進めるためのフォーラムです。

(ホームページ: <http://www.fnca.mext.go.jp/>)

○アジア地域における原子力発電導入の動きを受け、2004年より地域における原子力発電の役割や原子力発電の導入、利用に関する協力について検討するパネルを開催しています。3年間の第1フェーズ、2年間の第2フェーズを経て、2009年より、原子力発電に必要な基盤の整備について検討する第3フェーズを開始し、今回第3フェーズの第4回会合を開催します。

○昨年7月にインドネシア・ジャカルタで開催した第3回会合では、昨年3月11日の東北地方太平洋沖地震・津波により発生した福島第一原子力発電所の事故を受け、事故の情報とそこから学んだ知見や教訓について共有しました。また、地震・津波に対する日中韓の安全対策についての現状紹介や今後の在り方について情報交換を行いました。

○昨年12月に東京で開催された第12回大臣級会合では、FNCA各国の原子力施設への最高の安全基準の適用に向け、原子力安全の分野で協力強化すること、また自然災害への対策の知見や、福島第一原子力発電所の事故の教訓を共有するよう決議されています。このため、今回も引き続き、福島第一原子力発電所の最新情報を各国と共有するとともに、原子力災害における緊急時対応や、原子力利用に関するリスクコミュニケーション、人材育成等について各国における実例を共有し、課題や対策について議論を行います。

(問い合わせ先)

内閣府政策統括官（科学技術政策・イノベーション担当）付 原子力担当
濱田、加藤、反町

電話：03-3581-6690（直通）

03-5253-2111（内線44647）

FAX：03-3581-9828

(別添1)

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)
「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」
第4回会合プログラム案

日 時： 平成24年7月26日(木)－27日(金)
場 所： タイ・バンコク(サイアムシティホテル)
主 催： 内閣府、原子力委員会、
タイエネルギー省(MOE)、
タイエネルギー省エネルギー政策計画局(EPPO)、
タイ科学技術省(MOST)、タイ原子力技術研究所(TINT)
共同議長： 尾本 彰 原子力委員会委員
Dr. クルジット・ナコーンタップ タイエネルギー省事務次官補

平成24年7月26日(木)

セッション1:開会セッション

1.開会挨拶

(Dr. クルジット・ナコーンタップ タイエネルギー省事務次官補)

2.歓迎挨拶(尾本 彰 原子力委員会委員)

3.参加者自己紹介

4.アジェンダ採択

セッション2:東京電力福島第一原子力発電所事故に関する知見の最新情報

セッション3:緊急時対応

セッション4:立地評価

平成24年7月27日(金)

セッション5:リスクコミュニケーション

セッション6:原子力損害賠償

セッション7:人材育成

セッション8:プロジェクトマネジメント・資金調達

セッション9:パネル会合の今後の計画

セッション10:今次パネル会合の総括と第13回大臣級会合向け報告案

セッション11:閉会セッション

※各国等との調整により、プログラムを変更することがあります。

(別添2)

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)
「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」
第4回会合
出席者(予定)一覧

【FNCA参加国出席者】

- 1) バングラデシュ
 - ・ Mr. Md. Hasinur RAHMAN (モハメド・ハシヌル・ラーマン)
バングラデシュ原子力委員会 (BAEC) 主任科学官
 - ・ Mr. Mahmud HOSSAIN (マフムード・ホサイン)
バングラデシュ原子力委員会 (BAEC) 主任技術官

- 2) 中国
 - ・ Mr. LONG Maoxiong (ロン・マオション)
中国核能行業協会 (CNEA) 副事務局長
 - ・ Mr. XU Zhixiong (シュ・チーション)
中国国家原子能機構 (CAEA) 国際合作司副処長
 - ・ Mr. LIU Yunli (リウ・ユンリ)
中国広東核電集団有限公司 (CGNPC) タイ代表部代表

- 3) インドネシア
 - ・ Dr. Ferhat AZIZ (フェルハト・アジズ)
インドネシア原子力庁 (BATAN) 副長官 (研究開発成果利用・原子力科学技術広報担当)
 - ・ Mr. Ferly HERMANA (ファーリー・ヘルマナ)
インドネシア原子力庁 (BATAN) 原子力技術協力センター長

- 4) カザフスタン
 - ・ Dr. Erlan G. BATYRBEKOV (エルラン・G・バティルベコフ)
カザフスタン国立原子力センター (NNC) 第一副所長
 - ・ Dr. Ulzhan KOZTAYEVA (ウルシャン・コスタエワ)
カザフスタン国立原子力センター (NNC) 学術書記官

- 5) 韓国
(調整中)

- 6) マレーシア
 - ・ Dr. Muhd Noor MUHD YUNUS (モハメド・ノール・モハメド・ユナス)
マレーシア原子力庁 (Nuclear Malaysia) 副長官 (研究技術部門)
 - ・ Ms. Marina Binti MISHAR (マリナ・ビンティ・ミシャル)
マレーシア原子力規制委員会 (AELB) 主任補佐

7) モンゴル

- ・ Prof. Dr. Davva SUREN (ダヴァア・シュレン)
モンゴル国立大学 原子力研究センター長
- ・ Ms. Gantuya DULAANJARGAL (ガンチューヤ・ドゥラーンジャルガル)
モンゴル原子力庁 (NEA) 上級事務官
- ・ Mr. Damdinsuren ZUZAAN (ダムディンスレン・ズザーン)
モンゴル原子力庁 (NEA) 原子力・放射線規制部長

8) フィリピン

- ・ Dr. Corazon Caseñas BERNIDO (コラソン・カセナス・ベルニド)
フィリピン原子力研究所 (PNRI) 副所長
- ・ Mr. Teofilo V. LEONIN Jr. (テオフィロ・V・レオーニン・ジュニア)
フィリピン原子力研究所 (PNRI) 原子力規制課長 科学研究専門家

9) タイ

- ・ Dr. Kurujit NAKORNTHAP (クルジット・ナコーンタップ)
タイエネルギー省 (MOE) 事務次官補
- ・ Mr. Samerjai SUKSUMEK (サメルジャイ・スクスメック)
タイエネルギー省エネルギー政策計画局 (EPPD) 副局長
- ・ Dr. Somporn CHONGKUM (ソンポーン・チョンクム)
タイ原子力技術研究所 (TINT) 所長
- ・ Ms. Kanchalika DECHATES (カンチャリカ・デチャテス)
タイ原子力技術研究所 (TINT) 国際協力部長

10) ベトナム

- ・ Mr. DANG Thanh Luong (ダン・タン・ルオン)
ベトナム放射線・原子力安全庁 (VARANS) 副長官
- ・ Dr. PHAM Dinh Khang (ファン・ディン・カン)
ベトナム原子力研究所 (VINATOM) 原子力訓練センター長

【海外講演者】

- ・ Mr. Paul MURPHY (ポール・マーフィー)
ミルバンク・ツィード・ハドリ&マックロイ外国法事務弁護士事務所 上席弁護士

【国内出席者】

- ・ 尾本 彰
原子力委員会委員
- ・ 町 末男
FNCA 日本コーディネーター (元原子力委員会委員)
- ・ 松浦 重和
文部科学省 研究開発局原子力損害賠償対策室 次長
- ・ 本間 俊充
独立行政法人日本原子力研究開発機構 安全研究センター長

- ・ 山本 修
日本原子力発電株式会社 国際協力推進室 副室長
- ・ 荻野 晴之
一般財団法人電力中央研究所 原子力技術研究所 放射線安全研究センター
主任研究員

○調整により、出席者が変更されることがあります。

(別添3)

アジア原子力協力フォーラム (FNCA : Forum for Nuclear Cooperation in Asia) の概要

1. 概要及び目的

積極的な地域のパートナーシップを通して、原子力技術の平和的で安全な利用を進め、社会・経済的発展を促進することを目指す

2. 参加国

オーストラリア、バングラディッシュ、中国、インドネシア、日本、カザフスタン、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナムの全12か国

3. 経緯

原子力委員会が主催して開催してきた、近隣アジア諸国の原子力関係者が一同に会し、情報交換及び地域協力のあり方を議論する場であった「アジア地域原子力協力国際会議」を発展的に改組し、平成11年4月に「アジア原子力協力フォーラム」が発足した。

<原子力政策大綱における位置づけ（アジア諸国との協力部分）>

我が国が主体的・能動的に協力を行う国・地域は、地政学的にも経済的にも緊密な関係を有するアジアを中心とする。(略) これらの協力に当たっては、相手国の自主性を重んじ、パートナーシップに基づくことを基本として、例えばアジア原子力協力フォーラム(FNCA)、IAEAのアジア原子力地域協力協定(RCA)といった多国間の枠組みや、二国間及び国際機関を通じた枠組みを目的に応じて効果的に利用することが適切である。

(参考)「アジア地域原子力協力国際会議」は平成2年、アジア地域での放射線利用や研究炉での利用の推進に貢献するために、日本主導で設立された。平成10年、これまでの協力活動全体を総括し、内外との連絡・調整を行う「コーディネーター」を各国から選任し、その下で専門的見地から活動する「プロジェクトリーダー」を協力分野ごとに選任し、より組織的な協力活動を進めることのできるFNCA新体制に移行した。

4. 枠組み

① 大臣級会合

各国の原子力を所管する大臣級代表が出席して、原子力技術の平和利用に関する地域協力のための政策対話を行う。なお、大臣級会合を補佐するための上級行政官会合を付設。日本と参加国で交互に毎年1回開催。

(開催実績)

- 第1回大臣級会合：平成12年11月（タイ）大島科学技術庁長官出席
テーマ：「原子力利用の推進」、「原子力安全」、「地域原子力協力の推進」
- 第2回大臣級会合：平成13年11月（東京）尾身科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「持続可能な発展と原子力」、「放射線利用分野における協力のあり方」
- 第3回大臣級会合：平成14年10月（韓国）細田科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「人材養成戦略」、「持続可能発展と原子力」
- 第4回大臣級会合：平成15年12月（沖縄）茂木科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「放射線・ラジオアイソトープ利用の社会・経済的効果の増大」
「持続可能な発展と原子力エネルギー」
- 第5回大臣級会合：平成16年12月（ベトナム）棚橋科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「アジアにおける原子力人材育成に関する協力」、「FNCAの今後のあり方」
- 第6回大臣級会合：平成17年12月（東京）松田科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「アジアにおける原子力人材育成に関する協力」、「科学技術と原子力」
- 第7回大臣級会合：平成18年11月（マレーシア）平沢内閣府副大臣出席
テーマ：「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」
「原子力エネルギーの広報」
- 第8回大臣級会合：平成19年12月（東京）岸田科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「原子力エネルギーの平和利用への取組みとFNCA活動」
「放射線利用を中心としたFNCA活動」
- 第9回大臣級会合：平成20年11月（フィリピン）増原内閣府副大臣出席
テーマ：「原子力発電の基盤整備のための協力」
「放射線利用のさらなる促進のための協力」
- 第10回大臣級会合：平成21年12月（東京）菅科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「原子力エネルギー利用促進のためのさらなる協力」
「放射線・アイソトープ応用促進のためのさらなる協力」
- 第11回大臣級会合：平成22年11月（中国）和田内閣府大臣政務官出席
テーマ：「原子力エネルギー利用促進のためのさらなる協力」
「放射線・アイソトープ応用促進のためのさらなる協力」
- 第12回大臣級会合：平成23年12月（東京）
細野原発担当大臣、中塚内閣府副大臣出席
テーマ：「基盤整備（人材養成と広報）」
「放射線・アイソトープ応用促進のための協力」

② コーディネーターとコーディネーター会合

自国におけるFNCAプロジェクトの実施に責任を持つとともに、協力活動全体を総括して参加国相互の連絡調整を行う役割を持つコーディネーターが各国から1名選任されている。プロジェクトの実施状況を評価・レビューするとともに、全体計画を討議するため、コーディネーター会合を年1回日本で開催。日本のコ

ーディネーターは町末男文部科学省参与。

(開催実績)

○第 1 回	コーディネーター会合	平成 1 2 年 3 月	東京
○第 2 回	コーディネーター会合	平成 1 3 年 3 月	東京
○第 3 回	コーディネーター会合	平成 1 4 年 3 月	東京
○第 4 回	コーディネーター会合	平成 1 5 年 3 月	沖縄
○第 5 回	コーディネーター会合	平成 1 6 年 3 月	東京
○第 6 回	コーディネーター会合	平成 1 7 年 3 月	東京
○第 7 回	コーディネーター会合	平成 1 8 年 3 月	東京
○第 8 回	コーディネーター会合	平成 1 9 年 2 月	東京
○第 9 回	コーディネーター会合	平成 2 0 年 3 月	東京
○第 1 0 回	コーディネーター会合	平成 2 1 年 3 月	東京
○第 1 1 回	コーディネーター会合	平成 2 2 年 3 月	東京
○第 1 2 回	コーディネーター会合	平成 2 3 年 3 月	福井 (中止)
○第 1 3 回	コーディネーター会合	平成 2 4 年 3 月	福井

③ 「検討パネル」

平成 1 6 年から平成 1 8 年の 3 ヶ年間「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」検討パネル(第 1 フェーズ)を開催し、アジア地域における長期的な環境問題への対応やエネルギー資源の確保の面から原子力エネルギーの役割を評価しました。

その結果を受け、第 2 フェーズとして平成 1 9 年から平成 2 0 年の 2 ヶ年間「アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル」を開催し、1) 原子力発電分野における人材養成、2) 原子力発電にかかわる安全確保のための基盤整備について議論を行なった。平成 2 0 年 1 1 月にマニラで開催された第 9 回 FNCA 大臣級会合では、第 3 フェーズとして平成 2 1 年から「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」を開催することが決定されました。

(開催実績)

■ 第 1 フェーズ

「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割検討パネル」

- 第 1 回 パネル会合 平成 1 6 年 1 0 月 東京
- 第 2 回 パネル会合 平成 1 8 年 1 月 東京
- 第 3 回 パネル会合 平成 1 8 年 1 1 月 敦賀

■ 第 2 フェーズ

「アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル」

- 第 1 回 パネル会合 平成 1 9 年 1 0 月 東京
- 第 2 回 パネル会合 平成 2 0 年 9 月 東京

■第3フェーズ

「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」

○第1回 パネル会合 平成21年7月30日、31日 東京

議長：伊藤 隆彦 原子力委員会委員

○第2回 パネル会合 平成22年7月1日、2日 韓国

共同議長：尾本 彰 原子力委員会委員

Mr. SHIN Jae Sik (シン・ゼシク) 韓国教育科学技術部 (MEST)

原子力局 原子力協力課長

○第3回 パネル会合 平成23年7月5日、6日 インドネシア

共同議長：尾本 彰 原子力委員会委員

Dr. Taswanda TARYO (タスワンダ・タリヨ) インドネシア原子力庁
(BATAN) 次官 (研究開発研究成果利用・原子力科学技術広報担当)

④ 個別プロジェクトについての協力活動

FNCAは、放射線利用開発 産業利用・研究利用、放射線利用開発 健康利用、研究炉利用、原子力安全強化、原子力基盤強化、の5つの分野で10のプロジェクトを展開している。プロジェクト毎に各国1名のプロジェクトリーダーが任命されている。各参加国のプロジェクトリーダーは、自国におけるプロジェクト活動を実施していく責任を有する。プロジェクト毎に、通常年1回のワークショップ等を開催し、それぞれの国の進捗状況と成果を発表・討議して、次期実施計画を策定する。

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)の構成

